

マツ並木歴史ばなしあれこれ⑤

先月号で、「笠取峠立場図」についてご紹介しましたが、この史料の中で、「かさとり峠名ぶつ 三国一のちからもち」(三国一ちから餅、三国一力餅)や「横井戸銀明水」とありますが、そのことを今に伝える看板等が残っていますので、史料として掲載します。また、笠取峠の立場の明治期頃の写真もありましたので、あわせて掲載します。



笠取峠 (長崎大学附属図書館所蔵)



現在の笠取峠



表
銀名水
釋 三光
関壽恵蔵



裏
此横井戸安政六(年カ)未二月伊那郡飯町吉本屋治兵衛の母公、慈行三千六十一并御同志智久脇久蔵三度御(蔵カ)本教御開キのた(めカ)し折、此山中の水しと御氣付ありよりほりかかり同十六清泉流れ出、同廿八ため朝夕たすかり広大な出依て(先カ)携へ持飯田其外一御被申上候也右の御恩恵を事なく子二孫(伝カ)此御両道を相なり
箴千代もかはらぬ水のさみの恵とち、は、の

銀名水看板 (立科町教育委員会所蔵)



名物
中山道かさとり峠
三国一ノ力餅
小松屋壽恵蔵

三国一の力餅の縦看板 (立科教育委員会所蔵)